

意見提出通知書

2003年 6月 12日

審査3局 薬品化学審査担当官室

審査官 張 珍雅

出願人：アンジェス エムジー株式会社（出願人コード：520010071663）

日本国大阪府豊中市新千里東町1-4-2

代理人：特許法人 KOREANA

ソウル市江南区駅三洞824-19

出願番号：1998年特許出願第701515号

発明の名称：HGF遺伝子からなる医薬

この出願に対する審査の結果、下記のと通りの拒絶理由があり、特許法第63条の規定によりこれを通知しますので、意見がある場合又は補正が必要な場合は、2003年8月12日までに意見書[特許法施行規則の別紙第25号の2の書式]又は/及び補正書[特許法施行規則の別紙第5号の書式]を提出して下さい（上記の期間は、毎回1月ずつ延長申請することができ、別途の期間延長承認の通知はしません）。

[理由]

1. 本願の請求項第1項は、HGF遺伝子を含む薬剤を請求しているが、本願の出願前に頒布された刊行物であるヨーロッパ公開公報第461560号(1991. 12. 18; 引用発明1)に、HGF発現用遺伝子の序列が記載されており、上記遺伝子により発現される生理活性ペプチドに肝細胞の成長促進活性があることが開示されているところ、請求項第1項の遺伝子序列及び生理活性効果は、引用発明1に記載



の内容と同一のものであり、

請求項第2項は、HGF遺伝子を内包するリポソームを請求しているが、本願の出願前に頒布された国際公開第96/40062号(1996. 12. 19 ; 引用発明2)に、核酸が封入されたりポソームが記載されており、引用発明2と本願を比較してみると、両発明は、目的と構成において、イン・ビボまたはイン・ビトロから細胞内に遺伝子を導入させるために、HGF遺伝子をリポソーム内に封入した点が同一であるところ、

上記第1項及び第2項に記載の事項は、引用発明1及び2と同一の技術的思想に基づいて、同一の構成及び効果を有する発明であるものと認められるので、特許法第29条第1項第2号の規定に該当して特許を受けることができません。

2. 請求項第5項及び第6項は、2以上の項を引用する従属項として2以上の項を引用する他の従属項を引用しているので、特許法第42条第5項及び特許法施行令第5条第6項の規定による要件を満たしていないので、特許を受けることができません。

3. 請求項第5項は、動脈疾患治療に用いられる薬剤を請求しているが、対象疾患に対して具体的に記載しておらず、ただ動脈疾患としか表現していないため、発明が明確且つ簡潔に記載されたものと認められないので、特許法第42条第4項第2号の規定による要件を満たしていないので、特許を受けることができません。

[添付]

添付1 ヨーロッパ公開公報第461560号

添付2 国際公開第96/40062号

以上